島原市在宅医療・介護連携に関する市民アンケート調査業務【概要版】

【調査概要】

１．実施時期：平成３０年５月１８日（金）～６月１１日（月）

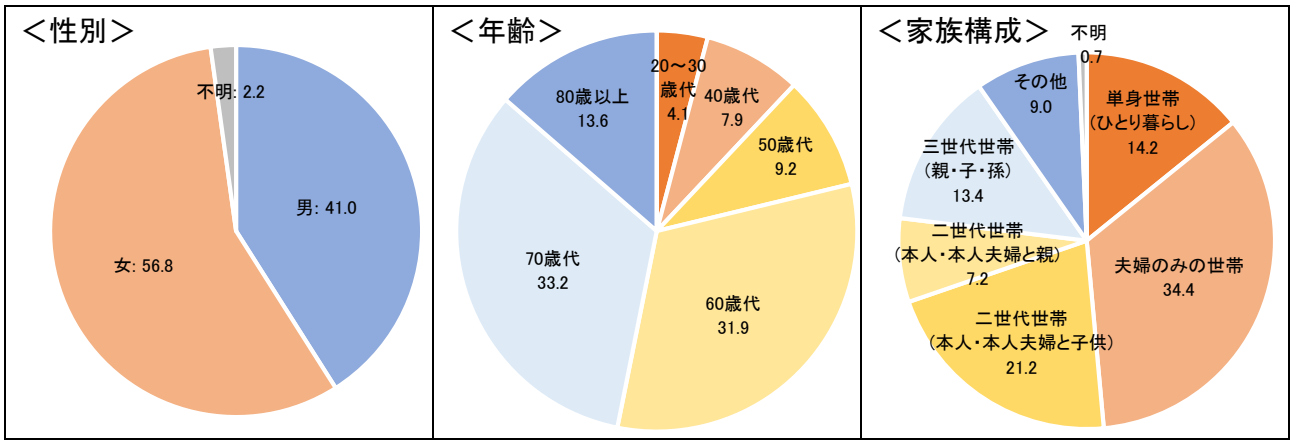
２．調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した満２０歳以上の市民３，０００人

３．抽出方法：地区・年齢別無作為抽出法

４．調査方法：郵送式自記入式アンケート調査

５．回収率：６３．５％（回収数１，８９５票）

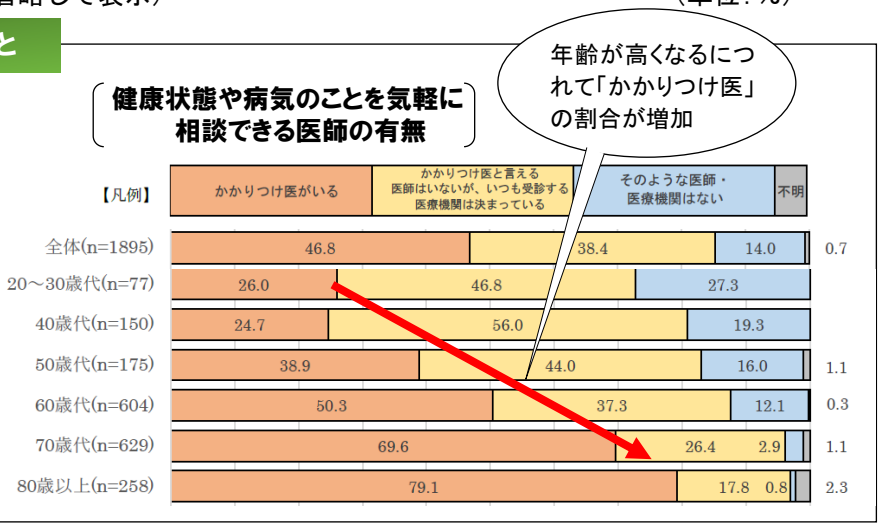
【回答者属性】（%）



【調査結果（N=1，895）】（※選択肢は省略して表示）　（単位：%）

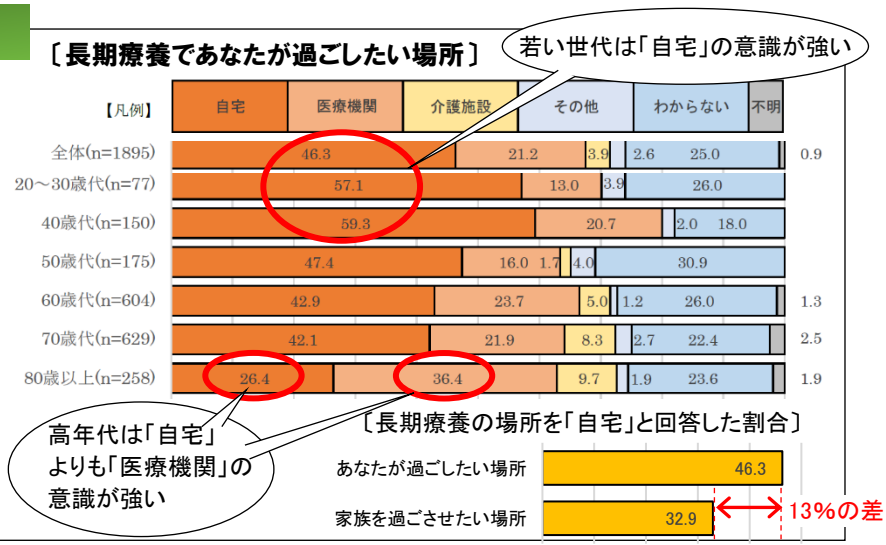
かかりつけ医・医療機関に関すること

- 「かかりつけ医がいる」は 46.8%で、年齢を重ねるにつれて割合が高まり、80歳以上では 79.1%に達する。
- 「かかりつけ医と言える医師はいないが、いつも受診する医療機関は決まっている」は、20～50 歳代までは 4 割を超え「かかりつけ医」よりも割合が高い。若い世代は医師よりも医療機関を特定する傾向がみられる。



長期療養に関すること

- 長期間の療養で“あなた”が過ごしたい場所は「自宅」が 46.3%で最も高い。特に 20～40 歳代は 6 割程度と「自宅」を好む傾向が強い。一方で 80 歳以上は「医療機関」が 36.4%と「自宅」を上回る。
- 一方、“家族”を過ごさせたい場所として「自宅」は 32.9%と“あなた”に比べ 13.4%低く意識のギャップが見られる。

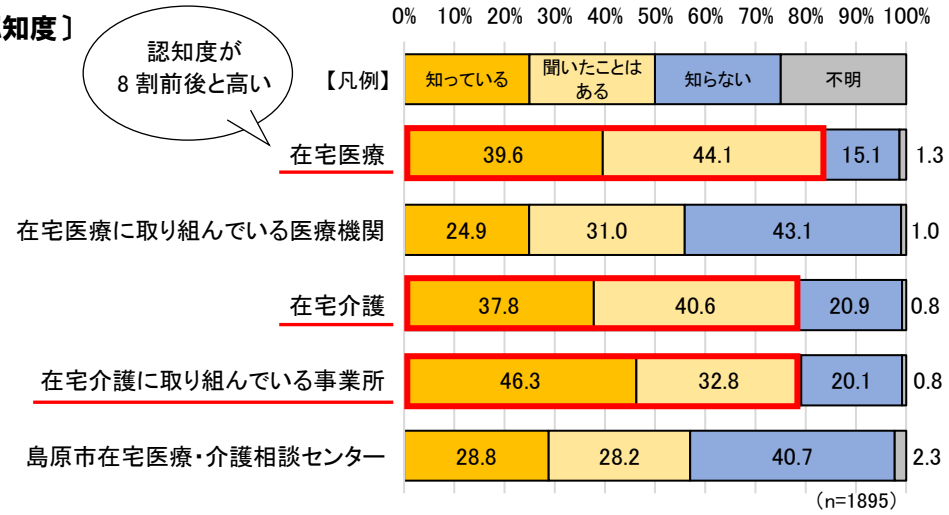


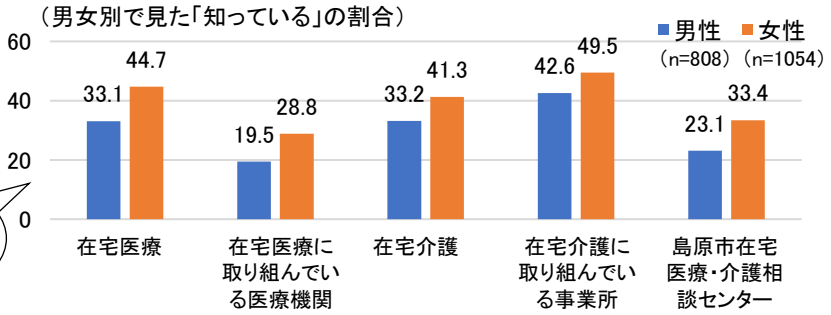
認知度に関すること

〔在宅医療・在宅介護などの認知度〕

- 「在宅医療」、「在宅介護」、「在宅介護に取り組んでいる事業所」は“知っている”が 4 割前後で高く、“聞いたことがある”を含めた認知度は 8 割前後となる。
- 一方で、「在宅医療に取り組んでいる医療機関」や「在宅医療・介護相談センター」の認知度は 6 割に満たない。
- 認知度の差は男女で大きく異なり、全般的に男性に比べ女性の認知度が高い傾向がみられる。

認知度が
8 割前後と高い



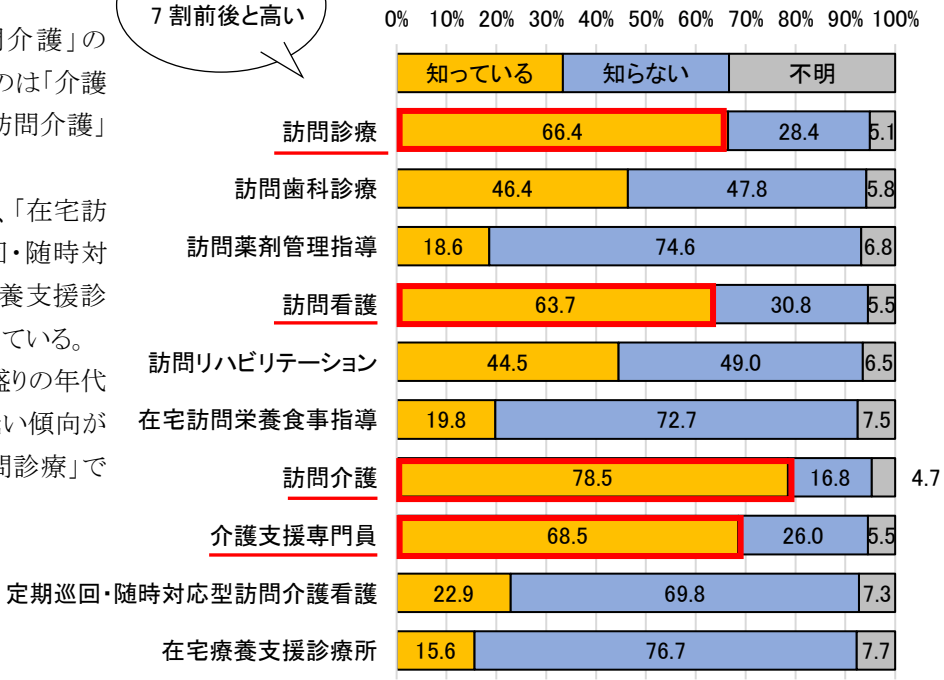


全体的に
男性に比べ女性の
認知度が高い

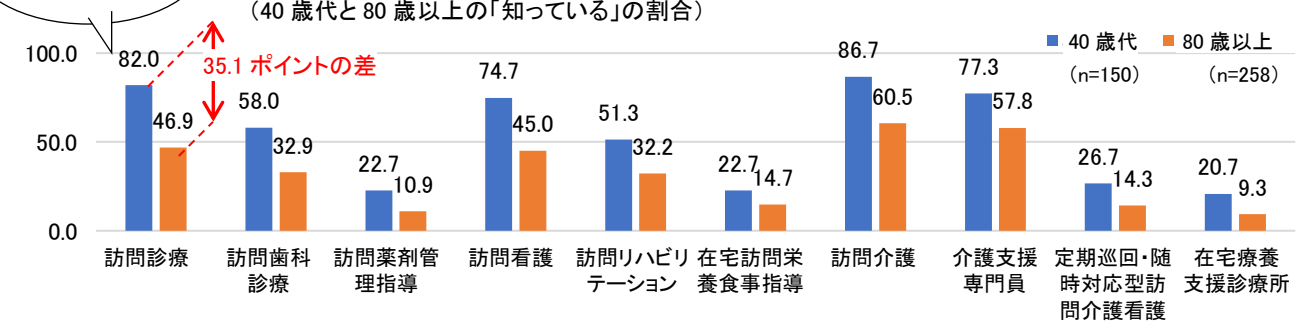
〔訪問診療・訪問看護などの認知度〕

- 認知度が最も高いのは「訪問介護」の 78.5%で、続いて 6 割を超えるのは「介護支援専門員」、「訪問診療」、「訪問介護」となっている。
- 一方で、「訪問薬剤管理指導」、「在宅訪問栄養食事指導」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「在宅療養支援診療所」は認知度が 3 割を下回っている。
- 認知度は 40 歳代などの働き盛りの年代で高い一方で、80 歳以上で低い傾向がある。最も差が大きいのは「訪問診療」でその差は 35.1 ポイントに上る。

認知度が
7 割前後と高い



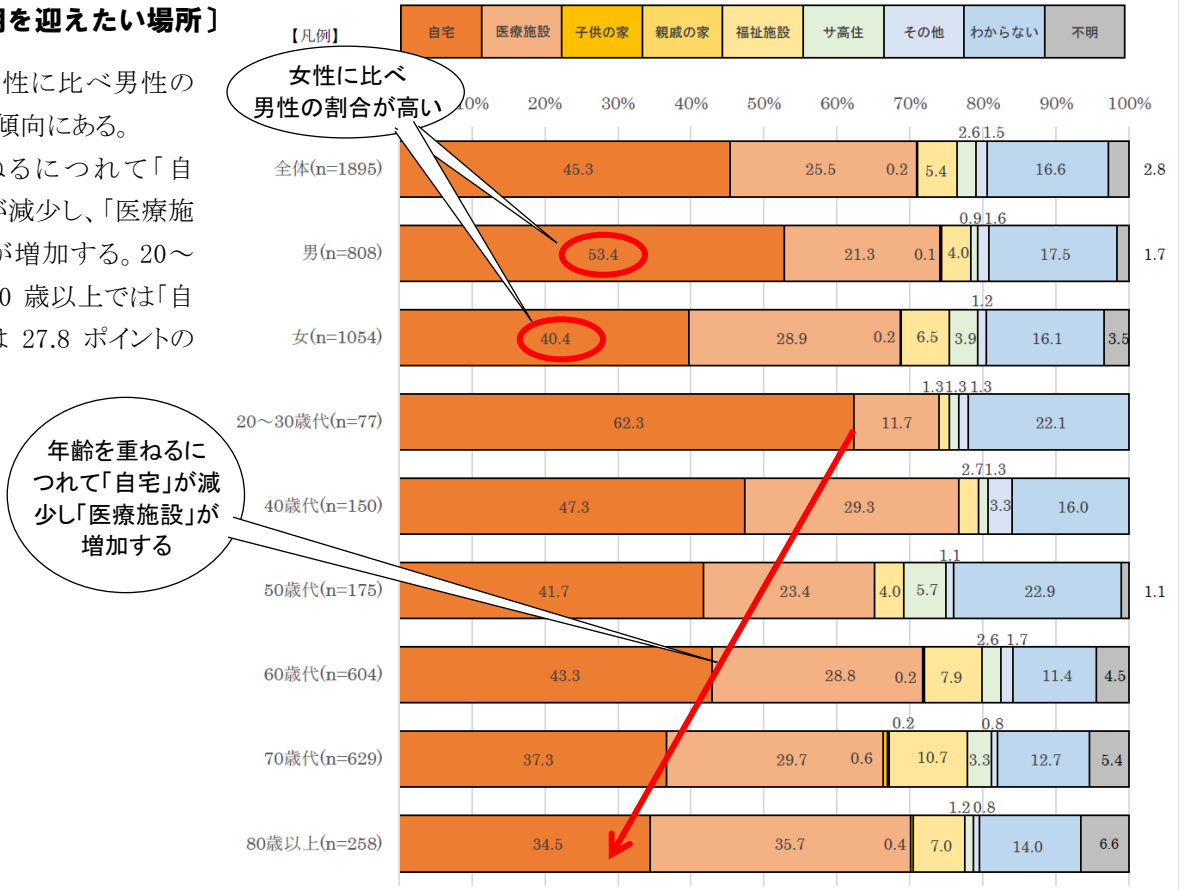
全体的に
80 歳以上の
認知度が低い



終末期に関すること

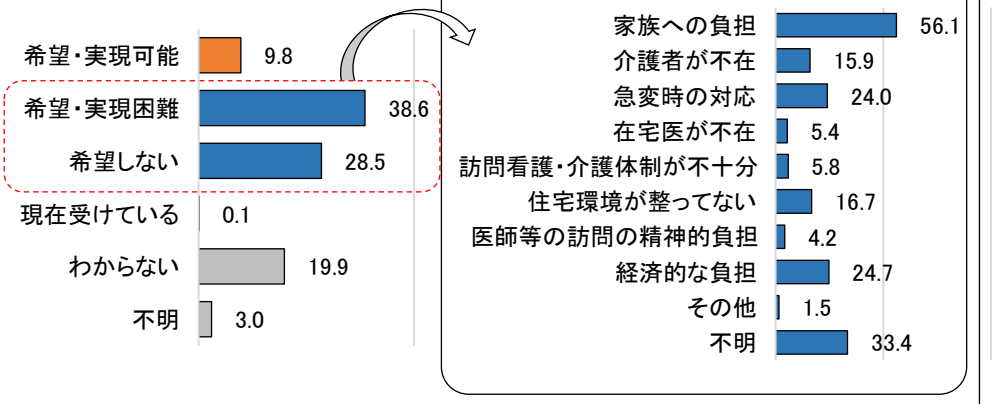
〔人生の最期を迎えたい場所〕

- 「自宅」は女性に比べ男性の割合が高い傾向にある。
- 年齢を重ねるにつれて「自宅」の割合が減少し、「医療施設」の割合が増加する。20～30 歳代と 80 歳以上では「自宅」の割合は 27.8 ポイントの差がある。



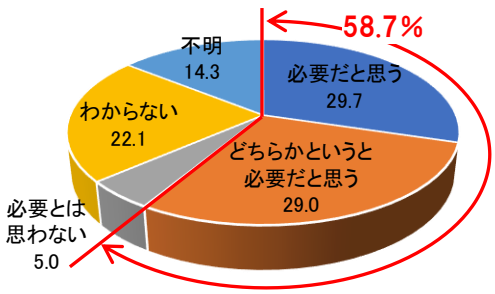
〔寝たきり状態における在宅医療の希望〕

- 在宅医療を「希望するが実現は困難だと思う」が 38.6%で最も高く、「希望しない」が 28.5%で続く。
- 在宅医療を実現できない・希望しない理由は「家族への負担」が 56.1%で最も高い。
また、「経済的な負担」、「急変時の対応」も 25%程度と高く、これらの3要因が課題であると考えられる。



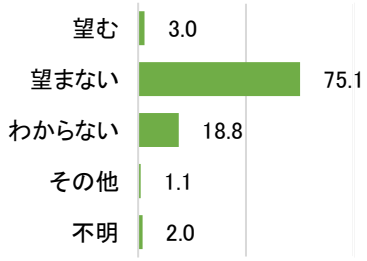
〔在宅医療の充実の必要性〕

- 「必要だと思う」、「どちらかというと必要」の合計は 58.7%と高い。



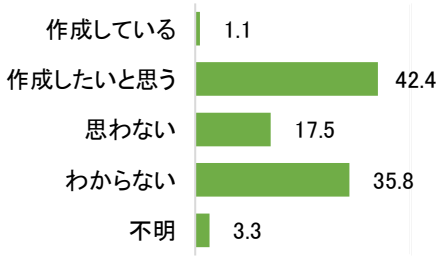
〔終末期における延命治療の希望〕

- 「望まない」が 75.1%と、「望む」の 3.0%を大きく上回っている。



〔終活ノートの作成〕

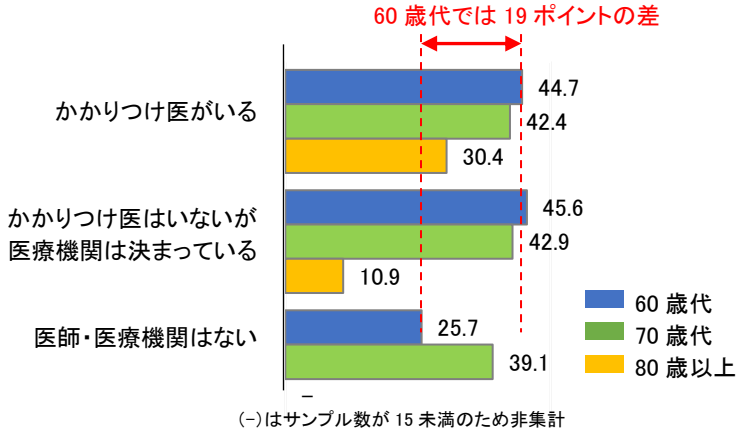
- 「作成したいと思う」が 42.4%と最も高いが、「作成している」は僅か 1.1%にとどまっている。



「かかりつけ医の有無」×「長期間の療養で過ごしたい場所」

- 60 歳代、70 歳代において、「かかりつけ医がいる」、「かかりつけ医はいないが、受診する医療機関は決まっている」と回答した人の 4 割以上が、長期間の療養で過ごしたい場所を「自宅」と回答している。
- かかりつけの医療機関の存在が、自宅での長期療養の安心感に繋がっている可能性がうかがえる。

（長期間の療養で過ごしたい場所を「自宅」と回答した割合）

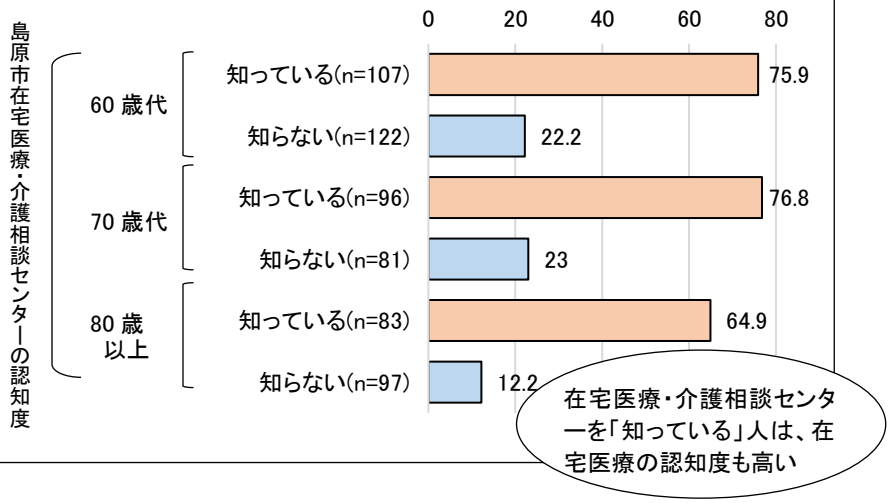


(－)はサンプル数が 15 未満のため非集計

「島原市在宅医療・介護相談センターの認知度」×「在宅医療の認知度」

- 全ての年代で、在宅医療・介護相談センターを「知っている」と回答した人は「聞いたことがある」又は「知らない」に比べ、在宅医療の認知度が高い傾向が見られた。
- 在宅医療・介護相談センターの認知度と在宅医療の認知度の相関関係がうかがえる結果となった。

（島原市在宅医療・介護相談センターの認知度別でみた「在宅医療」の認知度）



「家族構成」×「終活ノートの作成」

- 終活ノートを「作成したいと思う」と回答した割合は、「単身世帯（一人暮らし）」が 56%と最も高く、他の世帯に比べ 10 ポイント程度高くなっている。
- 単身世帯である状況と終活ノートに対する意識の相関関係がうかがえる。

（60 歳代の家族構成別でみた「終活ノート」の作成状況）

